

平成21年10月31日

平成21年度 日本ドッジボール協会 東地区中央研修会報告書

報告者: 遠藤 洋、久高 健

日時: 平成21年10月24日(土) 13:30 ~ 平成21年10月25日(日) 12:00

会場: 平成21年10月24日(土) ソニックシティービル903号室(さいたま市大宮区桜木町1-7-5)

平成21年10月25日(日) さいたま市和土小学校(さいたま市岩槻区黒谷1353)

[10月24日]座学

1. 京極競技委員長講義

登録チーム数	昨年度	1,500
	今年度	1,300(年度末見込み 現:700)
	過去最多	3,000

この現象をどうみるか? 原因は何か? 単一の原因ではない。

少子化、他のメジャースポーツへの流失を良く耳にするが、野球・サッカーなどの競技人口減少はみられないという。

つまり、少子化などの外部環境要因が主要因とは言えない。

我々は、日本ドッジボール協会設立当時に掲げた「理念」の普及を怠ったのではないか。それが現状を招いたのではないか。

我々が今なすべきことは「理念」を広める事ではないか。(FEEL THINK ACTION 12 参照)

2. ルールブック、テキストブックの主要改正項目解説

別紙資料参照

3. 事例解説、処理(対処)手順

ゲーム等における統一事項

(1) 「警告」イエローカードを提示する手順および仕方(プレイヤー・監督等)

- 【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」
- 2 選手をセンターラインから離れさせて座らせる
 - 3 副審・線審を集めて協議 (必要があればコートマスターに確認) 協議が必要なければ省略
 - 4 センターサークル後方で説明「赤3番 テクニカルファール」
コートマスターは、記録員に記録用紙に書くように指示
 - 5 該当選手のところまで行き、選手を立てさせてイエローカードの提示
 - 6 ボールの支配権の指示
 - 7 センターライン延長線上に戻り、タイムイン

(2) 退場を宣言する場合

(2-1) 「退場」レッドカードを提示する手順および仕方(プレイヤー・監督等)

(警告2枚目)

- 【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」
- 2 選手をセンターラインから離れさせて座らせる
 - 3 副審・線審を集めて協議 (必要があればコートマスターに確認) 協議が必要なければ省略
 - 4 センターサークル後方で説明「赤3番 テクニカルファール」「テクニカルファール2回目により退場」
コートマスターは、記録員に記録用紙に書くように指示
 - 5 該当選手のところまで行き、選手を立てさせてイエローカードの提示その後レッドカードを提示「退場」
 - 6 ペナルティーベンチに移動の指示(副審が移動の誘導)
ペナルティーベンチのない場合は、主審側後方の邪魔にならないところに座らせる
 - 7 ボールの支配権の指示
 - 8 センターライン延長線上に戻り、タイムイン

(2 - 2) 「退場」レッドカードを提示する手順および仕方(プレイヤー・監督等)

(一発退場)

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」

- 2 選手をセンターラインから離れさせて座らせる
- 3 副審・線審を集めて協議 (必要があればコートマスターに確認) 協議が必要なければ省略
- 4 センターサークル後方で説明「赤3番 テクニカルファール退場」
コートマスターは、記録員に記録用紙に書くように指示
- 5 該当選手のところまで行き、選手を立たせてレッドカードを提示「退場」
- 6 ペナルティーベンチに移動の指示(副審が移動の誘導)
ペナルティーベンチのない場合は、主審側後方の邪魔にならないところに座らせる
- 7 ボールの支配権の指示
- 8 センターライン延長線上に戻り、タイムイン

(3) 「失格」を宣言するとき

プレイヤー・監督等に対して

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」

- 2 選手をセンターラインから離れさせて座らせる
- 3 副審・線審を集めて協議 (必要があればコートマスターに確認) 協議が必要なければ省略
- 4 センターサークル後方で説明「赤3番 により失格」
コートマスターは、記録員に記録用紙に書くように指示
- 5 ペナルティーベンチに移動の指示(副審が移動の誘導)
ペナルティーベンチのない場合は、主審側後方の邪魔にならないところに座らせる
- 6 ボールの支配権の指示
- 7 センターライン延長線上に戻り、タイムイン

チームに対して

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」

- 2 選手をセンターラインから離れさせて座らせる
- 3 副審・線審を集めて協議 (必要があればコートマスターに確認) 協議が必要なければ省略
- 4 センターサークル後方で説明「 により失格」
コートマスターは、記録員に記録用紙に書くように指示
- 5 スコアの報告「11-0」
- 6 「集合」-「あいさつ」-「ベンチバック」

(4) 「指導」をあたえる場合

主審

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」

- 2 選手をセンターラインから離れさせて座らせる
- 3 副審・線審を集めて協議 (必要があればコートマスターに確認) 協議が必要なければ省略
- 4 主審が該当選手のところまで行き「指導」 選手は立たせなくてよい
- 5 センターサークル後方で説明「 により指導しました」
- 6 ボールの支配権の指示 タイム時にボールの支配権のある選手より再開する
- 7 センターライン延長線上に戻り、タイムイン

副審・線審

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイムの要求」 主審はタイムをとる

- 2 選手をセンターラインから離れさせて座らせる
- 3 副審・線審を集めて協議 (必要があればコートマスターに確認) 協議が必要なければ省略
- 4 タイムの要求をした審判員が該当選手のところまで行き「指導」 選手は立たせなくてよい
- 5 主審がセンターサークル後方で説明「 により指導しました」
- 6 ボールの支配権の指示 タイム時にボールの支配権のある選手より再開する
- 7 センターライン延長線上に戻り、タイムイン

(5) 「試合開始前」の各審判員への確認

【手順】 1 プレイヤーを静かに座らせる。(声も含めて)

2 右側のチームから人数の確認を行う

3 「白チーム内野11、外野1」「赤チーム内野10、外野2」とチームごとに確認する

確認対象はインプレイゾーン内のみ。両チームのベンチの人数の確認は、コートマスターの役割。

4 ジャンプボールの宣言

プレイヤーがセンターラインを踏まないように、サークルから足が出ないようにセットさせる

5 確認 線審1～4、副審に対しては「アウト」と同じ動作、オフシャルに対してはやや上に腕を上げて確認

6 ジャンパーゼッケンの確認はアイコンタクト

7 ボールトス(試合開始)

主審はボールタップ、副審は低い姿勢でジャンパーの足元を確認する。

(6) 「ジャンプボール」のやり直し

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」

ボールは副審が確保する

2 「ジャンプボールやり直します」

3 タイマーを戻してもらう

4 ジャンパーのゼッケン番号の確認(副審とアイコンタクトで)

各審判員への確認は必要なし

5 ボールトス(試合開始) 主審は、ボールタップ、副審は、低い姿勢でジャンパーの足元を確認する

(7) 「ヘルドボール」の対応

内野 - 内野

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」

2 「ヘルドボール」のコール

3 「ジャンプボール」のコールでセンターサークルにジャンパーを入れる(捕球したプレイヤー同士)

4 ジャンパーのゼッケン番号の確認(副審とアイコンタクトで)

各審判員への確認は必要なし

5 ボールトス(試合開始) 主審は、ボールタップ、副審は、低い姿勢でジャンパーの足元を確認する

内野 - 外野

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」

2 「ヘルドボール」のコール

3 ボールの支配権の指示(内野ボール)

4 センターライン延長線上に戻り、タイムイン

(8) 「ヘッドアタック」後の説明

【手順】 1 センターサークル後方で説明

・ヘッドアタック時の説明(例)

「ただいまのオフィシャルタイムアウトについて説明します。」 タイムのジェスチャーはしない

「赤 番(投球したプレイヤーに対して)ヘッドアタック。白内野ボール。」

・ボールが顔付近に当たった場合の説明(例)

「ただいまのオフィシャルタイムアウトについて説明します。」 タイムのジェスチャーはしない

「赤内野からのアタック、白 番(胸から顔に当たっているのに)アウト。 番ボール。」

(胸から顔に当たっているのに)このような部位の説明は、しなくてよい(間違い回避のため)

2 センターライン延長線上に戻り、タイムイン

(9) 「緊急プレイヤー」との交代方法

【手順】 1 主審が、負傷プレイヤーを監督とともにベンチへ下がらせ、コートマスターへ選手交代を報告。

2 コートマスターの前に緊急プレイヤーを呼ぶ

3 コートマスターがゼッケンを確認して記録員が記録用紙に記入

4 緊急プレイヤーをコートに入れる

5 センターサークル後方で説明「赤3番負傷の為、赤13番と交代します」

コートマスターは、ベンチに交代の報告

6 ボールの支配権の指示、センターライン延長線上に戻り、タイムイン

(10) 「サドンデス」の実施方法

【手順】 1 スコア報告後「この状態でサドンデスを行います」

- 2 「ジャンプボール」のコールでセンターサークルにジャンパーを入れる
- 3 センターサークル後方で線審1より各審判員の準備完了の確認
- 4 ジャンパーのゼッケン番号の確認（副審とアイコンタクトで）
- 5 ボールトス（試合開始） 主審は、ボールタップ、副審は、低い姿勢でジャンパーの足元を確認する

(11) 「複数セット試合」のセットカウント報告について

【手順】 1 主審がスコア報告

- 2 コートマスターは、セットカウントを主審に報告(例 2-1手で示す)
- 3 「集合」-「あいさつ」-「ベンチバック」

(12) 「不完全となったチーム」に対して手順および仕方

人数不足

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」

- 2 選手をセンターラインから離れさせて座らせる
- 3 副審・線審を集めて協議 人数を数える(必要があればコートマスターに確認) 協議が必要なければ省略
- 4 センターサークル後方で説明「不完全なチームになったので チームの負け」
コートマスターは、記録員に記録用紙に書くように指示
- 5 スコアの報告「11-0」
- 6 「集合」-「あいさつ」-「ベンチバック」

成人がいなくなった

【手順】 1 ピーッ(長い笛)「タイム」

- 2 選手をセンターラインから離れさせて座らせる
- 3 副審・線審を集めて協議 (必要があればコートマスターに確認) 協議が必要なければ省略
- 4 センターサークル後方で説明「成人がいなくなった為 負け」
コートマスターは、記録員に記録用紙に書くように指示
- 5 スコアの報告「11-0」
- 6 「集合」-「あいさつ」-「ベンチバック」

ケーススタディ

(1) アウトプレイしているプレイヤーに対するアタック

アタック成立

【処置】 アウト オーバーライン又はテクニカルファールで相手のボール支配権で試合再開

アタック不成立

【処置】 キャッチ オーバーライン又はテクニカルファールで相手のボール支配権で試合再開

ボールデッド アウトプレイ又はテクニカルファールで相手のボール支配権で試合再開

(2) ヘッドアタック

(2-1) アウトプレイしているプレイヤーに対するヘッドアタック

【手順】 ピーッ(長い笛)「タイム」 安全確認

【処置】 アウトプレイで相手内野のボール支配権で試合再開

【解釈】 アウトプレイが先に発生しており、アドバンテージの状態ではヘッドアタックが発生した。

ヘッドアタックによりアドバンテージが消滅しアウトプレーが確定。(最初のファールを適用する)

(2-2) オーバーラインしているプレイヤーに対するヘッドアタック

(ラインをまたいでいるプレイヤーに対するヘッドアタック)

【手順】 ピーッ(長い笛)「タイム」 安全確認

【処置】 ヘッドアタックで、当てられたチーム内野のボール支配権で試合再開

【解釈】 ボールに関与していない選手がラインをまたいでいる状態ではファールは発生していない。ボールが頭に当たった瞬間も「ボールの保有」には該当しないため、オーバーラインは発生していない。

- (3) 内野に復帰しようとしているプレイヤーがボールを避け、バランスを崩して転んだ。転んだときにオーバーラインしている状態になった相手チームからのアタック

【処置】 アウト・オブ・バーンズ

【解釈】 体がボールデッドゾーンに残っている状態なので、完全に内野復帰していない。

従って、転んだプレイヤーは内野選手ではなく、ボールデッドゾーンの床と同じ扱いとなる。

転んだプレイヤーに当たった瞬間にアウト・オブ・バーンズとなる。

キャッチした場合

【処置】 アウト・オブ・バーンズ

インターフェア

【解釈】 体がボールデッドゾーンに残っている状態なので、完全に内野復帰していない。

従って、転んだプレイヤーは内野選手ではなく、ボールデッドゾーンの床と同じ扱いとなる。

キャッチした行為が故意ではないと判断した場合(たまたま捕れた場合)

キャッチした行為が故意と判断した場合

【10月24日】実技

1. 統一基本動作解説と実技指導

(1) アウト

- ・判定時は低い姿勢でも立上って笛と指す手は同時に行い「1 番アウト」のコール

(2) オフシャルタイムアウト

【主審】

- ・手で作る「T」の位置は目の少し下の位置。(低すぎないように、視界をふさがない位置で)
- ・その場で笛は長め、コールは「タイム」
- ・タイマーが止まったかの確認まで

【副審】

- ・コートに入りながらジェスチャー、笛は同時に
- ・コールは「タイム」

(3) アウト・オブ・バーンズ

- ・確認できたらすぐ動作と笛
- ・笛をふきながら逆側の線審も確認(確認して動作・笛は×)

(線審がワンタッチとノータッチBに分かれた場合)

- ・アウト・オブ・バーンズの確認ができれば、すぐに動作をして「ピーツ」
- ・その後「ピーツ」、「タイム」

アウト・オブ・バーンズをしっかりと示した上で、次にオフシャルタイムアウトを取る。(アウト・オブ・バーンズの動作を省略しないこと)

(4) タイムイン

- ・コート全体を確認したら、ボールを持っている選手から目を離さず、タイムイン
- ・掌は内側、腕は真直ぐ上に向け、肘から概ね45度内側に傾ける

(5) 動作のないファール

【主審・副審】

- ・「ピーツ」
- ・「アウト」と同じ動作で対象選手を指してファール名をコールする。

【線審】

- ・「ピーツ」
- ・旗で対象選手を指してファール名をコールする。

(6) オーバーライン

【線審】

- ・ オーバーラインを発見したら、旗で対象選手を指す
(アドバンテージをみる場合はその確認後)「ピーツ」
- ・ オーバーライン動作(速やかに形をつくる、腕を大きく振らない)
- ・ 「オーバーライン」とコール

2. アタックゾーンの判定基準研修

コート上にアタックの上限ラインをゴムヒモで張り、ボールの軌道を色々な位置で確認。

- ・ 実際の選手を自然体で立たせて構えた際にボールの位置がどの位置にくるかの確認が必要
(ボールの高低と横の位置、特に主審と逆側(副審側)のボール軌道)
- ・ ベストポジションに間に合わない場合の対処
逆ポジションが間に合えばその位置へ移動し低い姿勢で確認
まったく間に合わない場合もその位置で低い姿勢で確認

3. 試合進行手順解説

(1) ジャンプボール

- ・ 手順は「 ゲーム等における統一事項」の(5)を参照

(2) ジャンプボールのやり直し

- ・ 手順は「 ゲーム等における統一事項」の(6)を参照

(3) ヘッドアタック時の処理方法

- ・ 「ピーツ」「タイム」
- ・ 選手による(まずは自分が確認)
- ・ 監督を呼ぶ
- ・ 協議が必要な場合は副審へ依頼
- ・ 監督の見送り
- ・ 協議の確認
- ・ 以降の説明の仕方については「 ゲーム等における統一事項」の(8)を参照

以上